

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	リハビリテーション医学		学科名	理学療法学科	講師名	住居 広士
時間数	15時間				実務経験の有無	医師業務
学年・学期配当		1 年次 2 年次		前期	後期	通期
目的・ねらい		リハビリテーション医学は、理学療法士にとって基礎的な理論であり、必須の実践内容である。理学療法士とリハビリテーション医学の基礎的であり体系的な関係性を学ぶ。				
授業全体の内容の概要		リハビリテーション医学は、理学療法士には基礎的な理論で、必須の実践内容である。国際障害分類から国際生活機能分類に至る機能・活動・参加の体系を学ぶ。理学療法士とリハビリテーション医学の基礎的であり体系的な関係性を学ぶ。リハビリテーション医学とその他のリハビリテーション分野も体系的に学ぶ。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		リハビリテーション医学は理学療法士には基礎的で必須の実践内容を理解する。国際障害分類から国際生活機能分類に至る機能・活動・参加の体系を理解する。理学療法士とリハビリテーション医学の基礎的と体系的な関係性を理解する。リハビリテーション医学とその他のリハビリテーション分野も体系的に理解する。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	リハビリテーション医学とは何か。			
	2	講義	国際障害分類(ICIDH)と国際疾病分類(ICF)			
	3	講義	国際生活機能分類(ICF)とリハビリテーション医学			
	4	講義	機能障害(Impairment)とリハビリテーション医学的測定			
	5	講義	能力低下(Disability)とリハビリテーション医学的評価			
	6	講義	リハビリテーション医学における診断と治療			
	7	講義	理学療法士とリハビリテーション医学			
	8	講義	リハビリテーション医学の総括とテスト			
			期末テスト			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		配布資料とビデオ等を参照する。テキスト・参考図書等は別途に案内する。				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況をもって判定する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	運動学			学科名	理学療法学科	講師名	今野 哲男
時間数	60時間					実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次2 年次			前期後期通期		
目的・ねらい		各関節の名称・形状・筋肉・運動について学習する。運動・動作の中で筋肉や関節がどのように関与しているのかを学ぶ。					
授業全体の内容の概要		運動学に必要な力学、四肢・体幹の個々の運動と機能を理解して、多くの関節が関与する動作へ繋げて学習する。					
授業修了時の達成課題（到達目標）		四肢、体幹の運動学的特徴を理解し、場所を示すことができる。					
指導計画	回	形態	内 容				
	1	講義	脊柱・骨盤①				
	2	講義	脊柱・骨盤②				
	3	講義	脊柱・骨盤③				
	4	講義	上肢帯①				
	5	講義	上肢帯②				
	6	講義	上肢帯③				
	7	講義	肩甲上腕関節①				
	8	講義	肩甲上腕関節②				
	9	講義	肩甲上腕関節③				
	10	講義	肩甲上腕関節④				
	11	講義	肘・前腕①				
	12	講義	肘・前腕②				
	13	講義	手部①				
	14	講義	手部②				
	15	講義	まとめテスト（1～14講）				
	16	講義	股関節の運動学①				
	17	講義	股関節の運動学②				
	18	講義	股関節の運動学③				
	19	講義	股関節の運動学④				
	20	講義	膝関節の運動学①				
指導計画	21	講義	膝関節の運動学②				
	22	講義	膝関節の運動学③				
	23	講義	膝関節の運動学④				
	24	講義	足関節の運動学①				
	25	講義	足関節の運動学②				
	26	講義	足関節の運動学③				
	27	講義	歩行①				
	28	講義	歩行②				
	29	講義	歩行③				
	30	講義	まとめ（16～29）				
		原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。					
テキスト・参考図書等		テキスト：筋骨格系のキネシオロジー					
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、単元ごと的小テスト、筆記試験（中間・終講）をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。					

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	運動療法学実習		学科名	理学療法学科	講師名	宮本 淳
時間数	45時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当	1 年次 2 年次				前期 後期	通期
目的・ねらい	運動療法学は、理学療法において中心的な治療の方法であり、理学療法士が必ず習得していなければならない基本的技術である。運動療法学は対象となる疾患により様々な方法があるが、基本的な技術のうえにそれぞれ構築されている。ここでは、運動療法学で学んだ基礎知識を活かし、各領域での理解を深めていく。					
授業全体の内容の概要	種々の疾患に共通する機能障害や能力低下に対する基本的な運動療法について学び、実践する能力を養う。					
授業修了時の達成課題（到達目標）	①運動療法の目的を理解する。 ②各種治療方法の目的を理解し手技を実行できる。					
指導計画	回	形態	内 容			
	1	実習	触診技術（肩甲帯・上腕）			
	2	実習	触診技術（肩甲帯・上腕）			
	3	実習	触診技術（前腕部・手指）			
	4	実習	触診技術（前腕部・手指）			
	5	実習	触診技術（下腿前面・後面）			
	6	実習	触診技術（下腿前面・後面）			
	7	実習	触診技術（大腿前面・後面）			
	8	実習	触診技術（大腿前面・後面）			
	9	実習	触診技術（足部）			
	10	実習	触診技術（体幹・骨盤）			
	11	実習	触診技術（体幹・骨盤）			
	12	実習	触診技術（頭頸部）			
	13	実習	触診技術（頭頸部）			
	14	実習	触診技術・関節可動域運動			
	15	実習	触診技術・関節可動域運動			
	16	実習	触診技術・関節可動域運動			
	17	実習	バランス機能と運動療法①			
	18	実習	バランス機能と運動療法②			
	19	実習	加齢による運動機能変化と運動療法①			
	20	実習	加齢による運動機能変化と運動療法②			

指導計画	21	実習	基本動作と運動療法①
	22	実習	基本動作と運動療法②
	23	実習	まとめ
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 <u>有</u> ・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイント などの提出を必須とする。
	テキスト・参考図書等		運動療法のための機能解剖学的触診技術 Crosslink 理学療法テキスト 運動療法学
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、終講試験、をもって判定する。終講試験は、実技試験と筆記試験を実施する。	

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名		解剖学実習		学科名	理学療法学科	講師名	浦川 将 ほか
時間数		45時間				実務経験の有無	大学での授業担当
学年・学期配当			1 年次			後期 火曜日午前	
目的・ねらい			解剖学で得た知識を活用し、他者の人体構造を触診したり内部構造を見学し、人体構造を理解したうえで三次元的構造を体得する。				
授業全体の内容の概要			立体的な肉眼解剖学の構造を理解し、ひとのからだに触れ、臨床技術につながる解剖学を体得する。適宜、口頭試問を行い、理解度を確認する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）			理学療法の検査や、運動学の基盤となる解剖学的知識を修得する。				
指導計画	回	形態	内 容				
	1	講義・実技	骨・関節の名称と触診				
	2	講義・実技	骨・関節の名称と触診				
	3	講義・実技	筋の名称と起始・停止、触診				
	4	講義・実技	筋の名称と起始・停止、触診				
	5	講義・実技	末梢神経と脈管の走行、触診				
	6	講義・実技	末梢神経と脈管の走行、触診				
	7	講義・実習	骨学、筋の起始・停止、支配神経、触診（頭頸部、体幹、骨盤）1 O 階実習室				
	8	講義・実習	骨学、筋の起始・停止、支配神経、触診（頭頸部、体幹、骨盤）1 O 階実習室				
	9	講義・実習	骨学、筋の起始・停止、支配神経、触診（上肢、下肢）1 O 階実習室				
	10	講義・実習	骨学、筋の起始・停止、支配神経、触診（上肢、下肢）1 O 階実習室				
	11	講義・実習	解剖見学実習（表皮、皮下組織、皮神経）解剖実習棟				
	12	講義・実習	解剖見学実習（表皮、皮下組織、皮神経）解剖実習棟				
	13	講義・実習	脳、脳血管（脳標本、ウィリス動脈輪）解剖実習棟				
	14	講義・実習	脳、脳血管（脳標本、ウィリス動脈輪）解剖実習棟				
	15	講義・実習	解剖見学実習（腕神経叢、胸部臓器、腹部臓器）解剖実習棟				
	16	講義・実習	解剖見学実習（腕神経叢、胸部臓器、腹部臓器）解剖実習棟				
	17	講義・実習	解剖見学実習（摘出臓器、神経、脈管）解剖実習棟				
	18	講義・実習	解剖見学実習（摘出臓器、神経、脈管）解剖実習棟				
	19	講義・実習	解剖見学実習（四肢の筋、神経、脈管：腹臥位）解剖実習棟				
	20	講義・実習	解剖見学実習（四肢の筋、神経、脈管：腹臥位）解剖実習棟				
	21	講義・実習	解剖見学実習（四肢の筋、神経、脈管：背臥位）解剖実習棟				
	22	講義・実習	解剖見学実習（四肢の筋、神経、脈管：背臥位）解剖実習棟				
	23		試験				
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等			※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）				
評価方法			実習時間の口頭試問と筆記試験により評価				

2025度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	外国語		学科名	理学療法学科	講師名	道広 博之
時間数	15時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期	後期	通期
目的・ねらい		近年、外国人労働者や観光客の増加により、リハの臨床現場においても外国人を対象とする場面が増えており、国際公用語としての英語によるコミュニケーション能力がより必要とされている。本科目では、英会話に慣れること、リハの専門英語を学びながら、診療場面で簡単な挨拶や診療の説明がある程度できることを目的とする。また、臨床上不可欠な英文の文献抄読についてのノウハウも学習する。				
授業全体の内容の概要		診療場面での英会話を学習する。 解剖学用語の英語・ラテン語表記について学び、それらの関連知識を学修する。 英文献を抄読する。 など				
授業修了時の達成課題（到達目標）		診療場面での挨拶、情報収集、診療内容の説明がある程度英語で行える。 リハビリテーション診療に必要な英語の必須語彙・語句を習得する。 関連ソフト等を用いて英文献を抄読できる。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	イントロダクション 診療場面の英会話①			
	2	講義	診療場面の英会話②			
	3	講義	診療場面の英会話③			
	4	講義	リハビリテーション専門用語① 解剖学用語			
	5	講義	リハビリテーション専門用語② 運動学用語・病理学用語			
	6	講義	リーディング①			
	7	講義	リーディング②			
	8	講義	文献抄読			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		筋骨格器系のキネシオロジー				
評価方法		各セッション終了後のミニテストと期末試験（いずれも筆記）で行いますが、最終的には、出席点や授業態度も加味して総合的に判定します。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	神経内科学Ⅱ （画像診断学を含む）		学科名	理学療法学科	講師名	浦川 将 ほか
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次 2 年次		前期	後期	通期
目的・ねらい		リハビリテーションにかかわる神経内科学を理解する。				
授業全体の 内容の概要		中枢神経系および末梢神経系の神経疾患について学ぶ。病気の成り立ちや、各疾患の特徴、リハビリテーションについて理解する。				
授業修了時の 達成課題 （到達目標）		神経内科学の概要と個別の疾患について理解し、神経系損傷患者に対応できうる基礎知識を整理する。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	脳動脈と脳血管障害（脳動脈・脳脊髄液）			
	2	講義	脳動脈と脳血管障害（水頭症、脳血管障害）			
	3	講義	脳動脈と脳血管障害（脳梗塞）			
	4	講義	脳動脈と脳血管障害（脳梗塞）			
	5	講義	脳動脈と脳血管障害（脳内出血）			
	6	講義	脳動脈と脳血管障害（脳動脈瘤ほか）			
	7	講義	Guillain-Barre症候群、Charcot-Marie-Tooth 病			
	8	講義	糖尿病性ニューロパチー、 多発性硬化症（MS）			
	9	講義	筋萎縮性側索硬化症（ALS）			
	10	講義	Parkinson病			
	11	講義	Parkinson病			
	12	講義	Parkinson症候群、Huntington病 ほか			
	13	講義	脊髄小脳変性症、筋ジストロフィー			
	14	講義	重症筋無力症、Lambert-Eaton症候群			
	15	講義	認知症			
	16		定期試験			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイント などの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		病気が見える 7脳・神経				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、期末試験をもって判定する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	人間関係論		学科名	理学療法学科	講師名	宮本 淳
時間数	15時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1年次2年次		前期後期通期		
目的・ねらい		人と人との関係に基づいて、人間の振る舞いや生活の様々な場面を想定して実践形式で学ぶことが人間関係論です。この授業を通して『自己理解』と『他者理解』を深めて、より良い人間関係を構築していく為に様々な資料を持ち入りながら授業を進めていく。				
授業全体の内容の概要		演習やグループワークを交えながら医療者としての心構えや基本的な姿勢、振る舞い方、コミュニケーション術を習得する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		①礼節を重んじること、②誠実かつ利他的であること、③前向きな態度であること、③円滑でしなやかなコミュニケーションがとれること、④人のためになる喜びを知ること 4項目ができることを達成目標とする。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	総論			
	2	講義	PTを志す者の心構え			
	3	講義	社会人としての基本姿勢			
	4	講義	医療従事者としてのふるまい方			
	5	演習	コミュニケーションの実践①			
	6	演習	コミュニケーションの実践②			
	7	演習	コミュニケーションの実践③			
	8	講義	まとめ			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。 レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		資料配布				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、実技試験をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	整形外科Ⅰ		学科名	理学療法学科	講師名	住居 広士
時間数	30時間				実務経験の有無	医師業務
学年・学期配当			1 年次2 年次		前期	後期通期
目的・ねらい			整形外科Ⅰは、整形外科の主に総論を学ぶ。整形外科の基礎医学的な内容を学ぶ。整形外科における運動器に関する基礎的運動学を学ぶ。理学療法士に必要な整形外科の基礎的な診断と治療を学ぶ。			
授業全体の 内容の概要			整形外科は、身体の姿勢および運動器に関する臨床医学であり、各分野に拡大しつつある。その中で、リハビリテーションを必要とする代表的な疾患、を体系化し病態、臨床症状、診断、治療などについて学ぶ。理学療法士と整形外科の基礎医学的体系について学ぶ。			
授業修了時の 達成課題 (到達目標)			整形外科は、身体の姿勢および運動器に関する臨床医学を理解する。リハビリテーションを必要とする代表的な疾患を体系化し病態、臨床症状、診断、治療などを理解する。			
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	運動器の構造と機能			
	2	講義	整形外科的診断法			
	3	講義	整形外科的治療法			
	4	講義	脊椎・脊髄			
	5	講義	上肢			
	6	講義	下肢			
	7	講義	中間試験			
	8	講義	代謝性疾患			
	9	講義	骨・関節系統疾患			
	10	講義	非感染性骨・関節、軟部組織疾患			
	11	講義	感染性骨・関節疾患			
	12	講義	骨・軟部腫瘍			
	13	講義	外傷			
	14	講義	末梢神経障害 整形外科疾患のリハビリテーション			
	15	講義	まとめ			
	16		期末試験			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等			医学書院 標準整形外科学			
評価方法			実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況をもって判定する。			

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	統計学		学科名	理学療法学科	講師名	今野 哲男
時間数	15時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期	後期	通期
目的・ねらい		自然科学をはじめ社会科学や人文科学の諸学問分野において統計学の知識は必要である。本講義では基本的な統計用語を理解し、データの処理、結果を解釈するために必要な知識を学ぶ。				
授業全体の内容の概要		データの整理の仕方、記述統計（平均、分散等）の理解、確率、母集団、標本抽出、確率分布を学んだうえで、推定、検定といった推測統計学を解説し、演習を行う。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		①基本的な統計用語について理解する。 ②代表的な統計手法（平均値の差の検定など）の結果の読み方について理解する。 ③EXCELソフトを用いて統計解析が行える。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	データの特性把握（データの分類と尺度）			
	2	講義	データの特性把握（データの中心とばらつき）			
	3	講義	確率分布（正規分布と確立）			
	4	講義	仮説検定の考え方			
	5	講義	仮説検定の方法			
	6	講義・演習	演習①			
	7	講義・演習	演習②			
	8	講義・演習	演習③			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
		原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等		配布資料				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	内科学Ⅱ (臨床薬理学を含む)		学科名	理学療法学科	講師名	河原 和子 今野 哲男
時間数	30時間				実務経験の有無	大学での授業担当(河原) 理学療法士業務(今野)
学年・学期配当			1 年次 2 年次		前期	後期 通期
目的・ねらい			全身的な内科疾患の内、理学療法の対象となる疾患について理解する。 8講以降は、病理学概論の講義となる。			
授業全体の 内容の概要			内科学Ⅰに引き続き、「解剖学」や「生理学」、「病理学」の復習を中心に、症候のメカニズムや各疾患の特徴の捉え方との関連づけを図る。適宜、治療薬についても説明する。 8講以降は、病理学となる。			
授業修了時の 達成課題 (到達目標)			内科的病気の基礎を知り、リハビリテーションの概要を理解する。 8講以降は、病理学概論の内容を確認すること。			
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	薬の基礎知識①			
	2	講義	薬の基礎知識②			
	3	講義	薬の基礎知識③			
	4	講義	循環器疾患①			
	5	講義	循環器疾患②			
	6	講義	循環器疾患③			
	7	講義	免疫細胞の種類とその役割。 自然免疫と獲得免疫			
	8	講義	獲得免疫：細胞性免疫と液性免疫の特徴と役割			
	9	講義	免疫異常： アレルギーの5つのタイプ、 免疫不全、 移植免疫について			
	10	講義	腫瘍に関する基礎知識：病名のルール、良性腫瘍と悪性腫瘍の相違			
	11	講義	腫瘍の疫学情報、 原発巣とその起こりやすい転移先、 悪液質の性状			
	12	講義	局所的な血行障害、 広範なうっ血による障害、 血栓症			
	13	講義	現在の日本の国民病： 生活習慣病（循環器系、腎臓病）			
	14	講義	栄養素の基礎知識。 各種ビタミンの働き 栄養素の摂取不足と疾患			
	15	講義	環境因子と健康障害：(電磁波、紫外線他) 口腔細菌と全身疾患との関係			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等			特に指定しない。			
評価方法			終講試験			

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	病理学概論		学科名	理学療法学科	講師名	河原 和子
時間数	8時間				実務経験の有無	大学での授業担当
学年・学期配当		1 年次 2 年次		前期	後期	通期
目的・ねらい		目の前の有病者に対して、先で起こりうる状況を予測し、最適なりハビリテーションの方法を計画・実施していける理学療法士の育成を図る、				
授業全体の内容の概要		1 様々な病変について、その病因や本態、転帰、起こり易い臓器等を学ぶ。2 講義初回では細胞に於けるタンパク質合成を扱う。タンパク質は身体構造成材として働く他、様々な機能物質として働く。3 生体防御に関して、主に免疫と栄養素で学ぶ。ただし免疫は、免疫疾患を招くことがある。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		試験において、1 覚えていなくても推論によって正答を得るちからを持っていること 2 組織画像を見たら、臓器名と異常領域や病名が分かること。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	講義のガイダンス、 病理学の役目、 手術前から始まる理学療法			
	2	講義	生体におけるタンパク質の役割、タンパク質合成の仕組み、細胞小器官について			
	3	講義	先天異常：遺伝子病、染色体異常、胎芽病			
	4	講義	変性（細胞内や組織の構造・機能異常）： 主要な変性の例、 局所の細胞死とそのタイプ			
	5	講義	内因性色素と病変			
	6	講義	退行性病変： 萎縮の分類、 筋萎縮について			
	7	講義	進行性病変： 肥大、過形成、化生 ※火傷、凍傷の症状とその評価			
	8	講義	炎症とは： 炎症の5兆候 創傷等の治癒機転			
テキスト・参考図書等		はじめの一步の病理学				
評価方法		原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	理学療法評価学実習Ⅰ			学科名	理学療法学科	講師名	梶田 山護
時間数	45時間					実務経験の有無	理学療法士として医療機関（病院）にて実務経験あり
学年・学期配当		1年次2年次			前期後期通期		
目的・ねらい		理学療法評価を行う上で必要な基礎的な知識および基本的技術を習得する。 本授業では主に理学療法重要な測定項目の1つである関節可動域測定の意義と目的を理解し、正確な測定技術の習得並びに関連知識を深めることを目的とする。					
授業全体の 内容の概要		関節可動域測定の目的・意義を理解し、各測定をペアで実技演習を行う。その上で正確な触診やリスク管理、代償動作に留意しながら実践し、臨床場面を想定した演習を行う。					
授業修了時の 達成課題 （到達目標）		1）関節可動域測定における基本軸・移動軸・参考可動域を理解する。 2）関節可動域検査における骨指標を触診できる。 3）主な関節の関節可動域測定を代償をに注意しながら正確に測定できる。					
指導計画	回	形態	内 容				場所
	1	講義・演習	イントロダクション				実習室
	2	演習	上肢の関節可動域測定				実習室
	3	演習	上肢の関節可動域測定				実習室
	4	演習	実技演習				実習室
	5	演習	体幹・下肢の関節可動域測定				実習室
	6	演習	体幹・下肢の関節可動域測定				実習室
	7	演習	体幹・下肢の関節可動域測定				実習室
	8	演習	実技演習				実習室
	9	演習	その他の評価法				実習室
	10	演習	その他の評価法（実技）				実習室
	11	演習	まとめ				実習室
	12						
	13	中間テスト	実技試験				教室
	14	中間テスト	実技試験				実習室
	15						
			原則、筆記試験の実施（筆記試験あり）・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイント などの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等		テキスト：図解 理学療法 検査・測定ガイド 第3版 文光堂・					
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期テストの受験資格を失うため各自で管理徹底すること。筆記 試験、実技試験を実施し、成績評価は、筆記試験、中間試験、終講試験の結果をもって判定する。授業の進捗状 況によって、授業内容を一部変更、順序の入れ替えをする場合がある。					

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	理学療法評価学実習Ⅰ		学科名	理学療法学科	講師名	梶田 山護
時間数	45時間				実務経験の有無	理学療法士として医療機関（病院）にて実務経験あり
学年・学期配当		1年次 2年次		前期	後期	通期
目的・ねらい		理学療法評価を行う上で必要な基礎的な知識および基本的技術を習得する。 本授業では主に理学療法重要な検査項目の1つである徒手筋力検査の意義と目的を理解し、各種理学療法評価法の知識を習得することを目的とする。				
授業全体の内容の概要		徒手筋力検査法の目的・意義を説明し、各検査をペアで実技演習を行う。その上で正確な触診やリスク管理、代償動作に留意しながら実践し、臨床場面を想定した演習を行う。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		1）徒手筋力検査法の目的及び意義を説明できる。 2）徒手筋力検査法をリスク管理および代償動作に注意しながら測定方法を実施できる。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義・実技	徒手筋力テスト概論			実習室
	2	講義・実技	徒手筋力テスト：肩関節			実習室
	3	講義・実技	徒手筋力テスト：肩関節			実習室
	4	講義・実技	徒手筋力テスト：肩関節			実習室
	5	講義・実技	徒手筋力テスト：肘関節・手関節			実習室
	6	講義・実技	徒手筋力テスト：手関節・手指			実習室
	7	講義・実技	徒手筋力テスト：股関節			実習室
	8	講義・実技	徒手筋力テスト：股関節			実習室
	9	講義・実技	徒手筋力テスト：膝関節・足関節			実習室
	10	講義・実技	徒手筋力テスト：体幹・頸部			実習室
	11	講義・実技	まとめ			実習室
	12	終講試験	終講試験（筆記）			実習室
		原則、筆記試験の実施 筆記試験 <u>有</u> ・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等		新・徒手筋力検査第10版				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期テストの受験資格を失うため各自で管理徹底すること。 筆記試験・実技試験を実施し、成績評価は、筆記試験、中間試験、終講試験の結果をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更、順序の入れ替えをする場合がある。				

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	理学療法評価学実習Ⅰ		学科名	理学療法学科	講師名	梶田 山護
時間数	45時間				実務経験の有無	理学療法士として医療機関（病院）にて実務経験あり
学年・学期配当		1年次	2年次	前期	後期	通期
目的・ねらい		理学療法評価を行う上で必要な基礎的な知識および基本的技術を習得する。 本授業では主に理学療法重要な検査項目の1つである関節可動域測定及び、徒手筋力検査の意義と目的を理解し、各種理学療法評価法の知識を習得することを目的とする。				
授業全体の内容の概要		関節可動域測定及び徒手筋力検査法の目的・意義を理解し、各測定をペアで実技演習を行う。その上で正確な触診やリスク管理、代償動作に留意しながら実践し、臨床場面を想定した演習を行う。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		本講義の到達目標は、臨床場面で通用する関節可動域測定及び徒手筋力検査法を修得することにある。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義・演習	イントロダクション			
	2	演習	上肢の関節可動域測定			
	3	演習	上肢の関節可動域測定			
	4	演習	実技演習			
	5	演習	体幹・下肢の関節可動域測定			
	6	演習	体幹・下肢の関節可動域測定			
	7	演習	体幹・下肢の関節可動域測定			
	8	演習	実技演習			
	9	演習	その他の評価法			
	10	演習	その他の評価法（実技）			
	11	演習	まとめ			
	12	演習	まとめ			
	13	中間テスト	実技試験			
	14	中間テスト	実技演習			
	15	講義・実技	徒手筋力テスト概論			
	16	講義・実技	徒手筋力テスト：肩関節			
	17	講義・実技	徒手筋力テスト：肩関節			
	18	講義・実技	徒手筋力テスト：肘関節・手関節			
	19	講義・実技	徒手筋力テスト：手関節・手指			
	20	講義・実技	徒手筋力テスト：股関節			
	21	講義・実技	徒手筋力テスト：股関節			
	22	講義・実技	徒手筋力テスト：膝関節・足関節			
	23	講義・実技	徒手筋力テスト：体幹・頸部			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験（有）・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		テキスト：図解 理学療法 検査・測定ガイド 第3版 文光堂・ 新・徒手筋力検査第10版				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、中間テスト、終講試験、出席状況、受講態度をもって判定する。終講試験は、筆記および実技テストとして実施する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更、順序の入れ替えをする場合がある。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	理学療法評価学総論		学科名	理学療法学科	講師名	梶田 山護
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士として医療機関（病院）にて実務経験あり
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期後期通期		
目的・ねらい		本講義の目的は、関節可動域測定及び形態測定を習得することにある。				
授業全体の内容の概要		この講義は理学療法評価学実習ⅠおよびⅡと連携した一連の講義の一つである。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		本講義の到達目標は、臨床場面で通用する関節可動域測定及び形態測定を修得する点にある。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	演習	治療が行われる中での「評価」の位置づけと流れ			
	2	演習	障害像の理解：障害モデル			
	3	演習	全体像の把握・医療面接			
	4	演習	バイタルサイン			
	5	演習	関節可動域とその障害，そして測定の方法			
	6	演習	形態測定の方法			
	7	演習	形態測定の方法と解釈			
	8	演習	関節可動域とその障害，そして測定の方法			
	9	演習	関節可動域測定の方法①			
	10	演習	関節可動域測定の方法②			
	11	演習	関節可動域測定の方法③			
	12	演習	関節可動域測定の方法④			
	13	演習	筋力とその障害，そして測定の方法			
	14	演習	徒手筋力検査の基本的な考え方			
	15	演習	徒手筋力検査①： 頸筋のテスト①			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験（有）・ 無し しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		理学療法評価学（第6補訂版）金原出版 新・徒手筋力検査法 第10版 協同医書				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため，管理を徹底すること。成績評価は，期末試験，出席状況，受講態度をもって判定する。期末テストは，筆記および実技テストとして実施する。判定に際しては，期末テスト，そして出席状況および受講態度は合算し1割の重み付けを行う。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	臨床実習Ⅰ (見学実習)		学科名	理学療法学科	講師名	理学療法学科教員
時間数	45時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期	後期	通期
目的・ねらい		病院・施設の概要を理解し、理学療法部門を含めたチーム医療としての各部門の位置付けを理解する。処方から退院までの理学療法業務の流れを理解する。				
授業全体の 内容の概要		学生は、病院や施設における理学療法士の役割と位置づけについて概観する。また、医療従事者間、医療従事者と患者・利用者間の関係を観察し、コミュニケーション、行動、言語の重要性を体験する。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		理学療法士の業務全般の重要性と各対象者との関わりを見学・体験を通して理解する。 社会人・医療人・専門家として臨床の場にふさわしい基本姿勢を身につける。 理学療法の対象疾患について理解を深め、より具体的にイメージできる。 臨床実習に必要な積極的な学習姿勢を身につける。				
指導計画	回	形態	内 容			場所
	1	講義	校内ガイダンス			
	2	実習	病院・施設実習 グループA：令和7年11月10日（月）～令和7年11月14日（金）			
	3	実習	病院・施設実習 グループB：令和7年11月17日（月）～令和7年11月21日（金）			
	4	講義	事後検討会			
	5					
	6					
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
		原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイント などの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等		特に指定しない。				
評価方法		臨床実習先の評価と報告レポートをもとに総合的に判断する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	物理学		学科名	理学療法学科	講師名	今野 哲男
時間数	15時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期後期通期		
目的・ねらい		身体運動を理解するために必要な物理学の基礎知識を身につける。				
授業全体の内容の概要		基本動作の観察評価に必要な力学的な考え方を学ぶ。また、共通科目として国家試験で出題される内容や計算についても学習する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		基本動作の観察評価に必要な力学的な考え方を理解できる。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	運動の変数①			
	2	講義	運動の変数②			
	3	講義	練習問題・運動の変数			
	4	講義	運動学・運動力学の基礎①			
	5	講義	運動学・運動力学の基礎②			
	6	講義	関節モーメント①			
	7	講義	関節モーメント②			
	8	講義	まとめ			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
			原則、筆記試験の実施 筆記試験（有）・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		テキスト：特に指定しない。 参考文献：基礎バイオメカニクス第2版				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	キャリア教育学		学科名	理学療法学科	講師名	山本 圭佑
時間数	45時間				実務経験の有無	ITインストラクター業務
学年・学期配当		1年次2年次		前期後期通期		
目的・ねらい		Word・Excel・PowerPointの基本的な操作を身に付け、社会における基礎PCスキル習得を目指す				
授業全体の 内容の概要		Word・Excel・PowerPoint・メール等の基本的操作の学習				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		Word・Excel・PowerPoint・メール等の基本的操作の習得				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	OSのPC基本操作 タイピング			
	2	講義	タイピング Excelの基本的な表作成 デザイン			
	3	講義	タイピング Excelの基本的な表計算 デザイン			
	4	講義	タイピング Wordの基本的な文書作成			
	5	講義	タイピング Wordの基本的な文書作成 画像の取り扱い			
	6	講義	タイピング Wordの基本的な文書作成 表の取り扱い			
	7	講義	タイピング Wordの基本的な文書作成 レイアウト			
	8	講義	タイピング Wordの総合演習			
	9	講義	タイピング PowerPointの基本的なスライド作成			
	10	講義	タイピング PowerPoint スライドデザイン			
	11	講義	タイピング PowerPoint プレゼンテーション			
	12	講義	タイピング メールの基本操作・マナー			
	13	講義	タイピング メールの基本操作・マナー			
	14	講義	officeソフト総合演習			
	15	講義	officeソフト総合演習			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。 レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		なし				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、実技試験、出席状況をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	キャリア教育学		学科名	理学療法学科	講師名	山本 圭佑 宮本 淳	
時間数	45時間				実務経験の有無	ITインストラクター 理学療法士業務	
学年・学期配当			1年次 2年次		前期	後期	通期
目的・ねらい			実習を想定した情報処理技能を獲得する。 理学療法士が所属する関連団体についての理解 地域貢献事業の実践。				
授業全体の 内容の概要			officeソフトの活用 理学療法士連盟についての講演会 地域貢献事業の実践。				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)			実習を想定した情報処理技能を獲得する。 理学療法士連盟について理解する。 地域貢献事業について理解する。				
指導計画	回	形態	内 容				
	1	講義	理学療法士連盟について				
	2	講義	理学療法士連盟について				
	3	実習	officeソフトの活用				
	4	実習	officeソフトの活用				
	5	講義	地域貢献事業について（オリエンテーション）				
	6	実習	地域貢献事業				
	7	実習	地域貢献事業				
	8	実習	地域貢献事業				
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。 レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等			なし				
評価方法			実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、実技試験、出席状況をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	コミュニケーション論		学科名	理学療法学科	講師名	道広 博之 谷永 憲史
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務（道広）
学年・学期配当			1 年次	2 年次	前期	後期 通期
目的・ねらい			肯定的相互尊重の姿勢を持ち、自己肯定感が高く、主体性を持って行動できる自立した人材を育成する			
授業全体の 内容の概要			対人コミュニケーションにおいて、自分も相手も大切にする姿勢を重視し、対象者との良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を生かすことで信頼関係が生まれ、専門家としての知識・技能が発揮できることに繋がることを、座学、RP、体験談を踏まえて進めていく（1～13回谷永・14～15回道広）			
授業修了時の 達成課題 （到達目標）			接遇の「評価表」の18項目を5段階で全て3以上とする（定量にて数値化）			
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	医療の特性を把握、自己概念・自己肯定感			
	2	講義	自己理解を深める、自己自身の態度			
	3	講義	自我状態、3つの交流パターン			
	4	講義	存在認知の活用法、言語・準言語・非言語			
	5	演習	【接遇】「見る」の定義、「聴く」の定義			
	6	演習	【接遇】「伝える」の定義、自己主張の仕方			
	7	講義	自分自身の状態、怒りのコントロール			
	8	演習	【接遇】自分の将来を描く、言葉・表情・お辞儀			
	9	演習	【接遇】場面別マナー、電話の架け方・出かた			
	10	講義	ビジネスメール、オンラインコミュニケーション			
	11	講義	実習先へのお礼の手紙の書き方、医療面接			
	12	演習	【接遇】質問の仕方、話す技術			
	13	講義	聴く技術、困ったときのコミュニケーション			
	14	講義	認知症の方、失語症の方とのコミュニケーション			
	15	講義	患者さん・家族、スーパーバイザーとのコミュニケーション			
		試験				
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 <u>有</u> 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等			医学書院出版 コミュニケーション実践ガイド 第3版			
評価方法			実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。			

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	リハビリテーション概論 (地域包括ケアシステムを含む)		学科名	理学療法学科	講師名	熊田 健司
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当			1 年次 2 年次		前期 後期 通期	
目的・ねらい			リハビリテーションの意味を理解する。 多職種連携の重要性について学ぶ。 臨床における心構えを理解する。			
授業全体の 内容の概要			理論的・概念的な内容となりますが、理学療法士としての役割・考え方・心構えなどを臨床の話を交ぜながら、お伝えしたいと考えます。			
授業修了時の 達成課題 (到達目標)			リハビリテーションの理念・定義・考え方を正しく理解する。 多職種連携（チームアプローチ）の重要性について理解する。 地域包括ケアシステムの中でのリハビリテーション職種の役割を理解する。			
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	リハビリテーションの概念・理念・定義			
	2	講義	健康と障害の概念と分類			
	3	講義	障害の心理的・社会的視点			
	4	講義	リハビリテーション過程			
	5	講義	リハビリテーションの諸段階			
	6	講義	医療とリハビリテーション専門職と役割			
	7	講義	チームアプローチ			
	8	講義	ADL・QOLの概念と評価法			
	9	講義	地域リハビリテーションの考え方・実際			
	10	講義	医療・介護保険制度の変遷			
	11	講義	介護保険サービス概論（介護保険の仕組み）			
	12	講義	地域包括ケアシステムと理学療法士の役割			
	13	講義	介護予防と健康増進			
	14	講義	住環境整備			
	15	講義	対人援助技術			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 <u>有</u> ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等			特になし			
評価方法			実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況をもって判定する。（出席率・受講態度等）			

※形態は、講義・演習・実習(施設/企業等)

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	運動療法学		学科名	理学療法学科	講師名	宮本 淳
時間数	15時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期後期通期		
目的・ねらい		運動療法学は、理学療法において中心的な治療手技であり、理学療法士が必ず習得していなければならない基本的技術である。運動療法の目的、原理を理解し、まずは基本的な知識・技術を理解する。				
授業全体の内容の概要		運動療法学では、理学療法において重要な部分を占める運動療法の基礎知識を学ぶ。理学療法における運動療法の位置づけ、筋収縮の様式、関節可動域運動や筋力増強運動などの基本的な運動療法の目的と手段、対象、適応について学ぶ。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		①基本的な運動療法の原理を理解する ②基本的な運動療法の技術を理解する ③代表的な運動療法を理解する ④応用的な運動療法の一部を理解する				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	運動療法学総論①ー運動療法の定義と特徴・分類			
	2	講義	運動療法学総論②ー運動療法の適応と禁忌・手順			
	3	講義	筋機能と運動療法ー筋の構造と機能①			
	4	講義	筋機能と運動療法ー筋の構造と機能②			
	5	講義	関節可動域と運動療法ー関節構造と機能①			
	6	講義	関節可動域と運動療法ー関節構造と機能②			
	7	講義	バランス機能と運動療法ー姿勢動作におけるバランス機能①			
	8	講義	バランス機能と運動療法ー姿勢動作におけるバランス機能②			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		Cross link 理学療法テキスト 運動療法学				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、期末試験、出席状況、受講態度をもって判定する。期末試験は、筆記試験を実施する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	基礎医学演習Ⅰ		学科名	理学療法学科	講師名	今野 哲男
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期	後期	通期
目的・ねらい		解剖学や生理学といった医学の基盤分野を学習することで、人体の構造や機能・メカニズムについて理解する。				
授業全体の内容の概要		呼吸器系、循環器系、内分泌系、消化器系を中心に基礎医学を学修する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		病気の原因や発症から治癒への経過を理解するための基礎知識が理解できる。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	呼吸器①			
	2	講義	呼吸器②			
	3	講義	呼吸器③			
	4	講義	免疫①			
	5	講義	免疫②			
	6	講義	内分泌器官①			
	7	講義	内分泌器官②			
	8	講義	腎・泌尿器①			
	9	講義	腎・泌尿器②			
	10	講義	消化器系器官①（肝臓・胆嚢・膵臓）			
	11	講義	消化器系器官②（肝臓・胆嚢・膵臓）			
	12	講義	消化器系器官③（食道・胃・腸）			
	13	講義	循環器①			
	14	講義	循環器②			
	15	講義	まとめ			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験（有）・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		特に指定しない。				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況、受講態度をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	心理学		学科名	理学療法学科	講師名	道広 博之
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期後期通期		
目的・ねらい		人間の心的構造を科学的に認識させる				
授業全体の 内容の概要		臨床、性格、社会、発達、知覚、認知、記憶、行動に関する心理学				
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		心理学全般の基礎的内容を理解すること				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	臨床心理学の範囲、精神分析、行動療法、認知行動療法			
	2	講義	カウンセリング、家族療法、芸術療法、非行の心理学			
	3	講義	性格とは何か、性格心理学			
	4	講義	性格はどうつくられるか、性格の一貫性と変化			
	5	講義	社会的行動の心理学、他者の感情、性格の理解、コミュニケーション			
	6	講義	集団が人間を変える、群集心理			
	7	講義	発達心理学（新生児期、乳児期、幼児期）			
	8	講義	知識の獲得（児童期）、思春期の悩み、成人期、中年期、老年期の課題			
	9	講義	心理学的アセスメント、心理学的測定の考え方、知能のアセスメント			
	10	講義	発達のアセスメント、適性のアセスメント、性格のアセスメント、心理学的アセスメントの問題点			
	11	講義	環境をとらえる仕組み、知覚のシステム、知覚とアフォーダンス			
	12	講義	記憶の仕組み、認知のバイアス			
	13	講義	行動とは何か、学習とは何か、生得的行動、学習される行動			
	14	講義	レスポナント条件づけ、オペラント条件づけ、オペラント条件づけと人間行動			
	15	講義	心理学の歴史			
		原則、筆記試験の実施 筆記試験 (有) ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイント などの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等		『心理学・入門 -- 心理学はこんなに面白い 改訂版』（有斐閣アルマ）				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況、受講態度をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名		神経内科学Ⅰ		学科名	理学療法学科	講師名	浦川 将 ほか
時間数		30時間				実務経験の有無	大学での授業担当
学年・学期配当		1年次2年次			前期	後期	通期
目的・ねらい		リハビリテーションにかかわる神経内科学を理解する。					
授業全体の内容の概要		中枢神経系および末梢神経系の神経疾患について学ぶ。神経解剖や神経生理学など、疾患を理解するための必要知識を習得する。					
授業修了時の達成課題（到達目標）		神経内科学の概要と個別の疾患について理解し、神経系損傷患者に対応できうる基礎知識を整理する。					
指導計画	回	形態	内 容				
	1	講義	神経系の構造と機能（大脳の構造）				
	2	講義	神経系の構造と機能（大脳皮質）				
	3	講義	神経系の構造と機能（辺縁系、基底核）				
	4	講義	神経系の構造と機能（脳幹、小脳）				
	5	講義	運動・感覚・自律神経（運動の伝導路）				
	6	講義	運動・感覚・自律神経（運動異常、検査）				
	7	講義	運動・感覚・自律神経（感覚の伝導路、検査）				
	8	講義	運動・感覚・自律神経（自律神経）				
	9	講義	脳神経とその障害（脳神経全体、嗅覚・視覚・眼球運動）				
	10	講義	脳神経とその障害（三叉～内耳神経）				
	11	講義	脳神経とその障害（舌咽～舌下神経）				
	12	講義	脊髄とその障害（全体像、血管支配）				
	13	講義	脊髄とその障害（脊髄AVMと空洞症）				
	14	講義	末梢神経とその障害（全体像、デルマトーム）				
	15	講義	末梢神経とその障害（絞扼・圧迫性ニューロパチー）				
	16		定期試験				
		原則、筆記試験の実施 筆記試験 <u>有</u> ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。					
テキスト・参考図書等		病気が見える 7脳・神経					
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、期末試験をもって判定する。					

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名		人間発達学		学科名	理学療法学科	講師名	道広 博之
時間数		30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当			1 年次		2 年次	前期	後期 通期
目的・ねらい			リハビリテーションサービス提供を使命とするため、人間の一生にわたる発達について学ぶ必要がある。				
授業全体の 内容の概要			身体構造、脳神経、内部臓器の成長・変化・運動・感覚・認知（精神）・言語機能を中心とし、人間の運動機能・動作能力に影響を与えるハnadスキル、コミュニケーション				
授業修了時の 達成課題 （到達目標）			人間発達の全体像を理解すること。			心理、精神、社会学も含めた。	
指導計画	回	形態	内 容				
	1	講義	人間発達とは				
	2	講義	人間発達学の理解と研究法				
	3	講義	自然科学からみた人間				
	4	講義	社会科学からみた人間				
	5	講義	身体運動器機能一身体構造、胎児期～青年期				
	6	講義	身体運動器機能一身体構造、成人期～老年期				
	7	講義	身体運動器機能一運動 歩行1 胎児期～青年期				
	8	講義	身体運動器機能一運動 歩行2 成人期～老年期				
	9	講義	身体運動器機能一運動 脳神経系機能（反射・反応）				
	10	講義	身体運動器機能一運動 内部（生理）機能				
	11	講義	身体運動器機能一運動 感覚・認知機能（精神状態）				
	12	講義	言語機能				
	13	講義	心理・社会性				
	14	講義	生について一社会化と再社会化				
	15	講義	死について				
	テキスト・参考図書等			『シンプル理学療法・作業療法シリーズ 人間発達学』（南江堂）			
評価方法			実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験，出席状況をもって判定する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	生物学		学科名	理学療法学科	講師名	今野 哲男
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1年次2年次		前期後期通期		
目的・ねらい		理学療法の対象である人間のからだを理解する。				
授業全体の内容の概要		筋骨格器系、神経系について、基本事項を学習する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		解剖学・生理学・運動学・評価学を理解するための生物学の知識を身に付ける。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	骨①			
	2	講義	骨②			
	3	講義	関節①			
	4	講義	関節②			
	5	講義	筋学①			
	6	講義	筋学②			
	7	講義	筋学③			
	8	講義	神経細胞			
	9	講義	中枢神経と末梢神経			
	10	講義	伝導路①			
	11	講義	伝導路②			
	12	講義	大脳皮質①			
	13	講義	大脳皮質②			
	14	講義	大脳基底核			
	15	講義	まとめ			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		特定しない。				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する場合がある。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	生理学		学科名	理学療法学科	講師名	井崎 義己
時間数	60時間				実務経験の有無	病院ならびに介護老人保健施設・通所リハビリテーションの経験有
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期後期通期		
目的・ねらい		理学療法評価ならびに治療の基礎となる疾患や障害を把握・理解するためには、身体の構造や働きを知ることが必須である。疾患や障害をより良く理解するために、各臓器や器官の働きを系統的に学習する。また、見事な身体のしくみを学習することで身体についての興味や関心を向上させる。				
授業全体の内容の概要		各臓器や器官の働きはもちろんのこと、生理学的分類に沿って正常な系統的メカニズムについて紹介・教授する。でき得る限り、マクロ面（全体的な関わり）とミクロ面（組織・細胞レベルの働き）を混在しないように進めていく。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		1. 広義の代謝（呼吸・循環・消化系等）の概要が理解できる。 2. ホメオスタシスに関与する自律神経系と内分泌系の働きが理解できる。 3. 免疫系のしくみが理解できる。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	第1章 生理学総論（1）：身体の階層性、物質の移動、ホメオスタシス			
	2	講義	第2章 生理学総論（2）：細胞の構造と機能			
	3	講義	第7章 血液（1）：血液の組成（赤血球・白血球・血小板・血漿）			
	4	講義	第7章 血液（2）：血液凝固のメカニズム、血液型			
	5	講義	第8章 循環（1）：心臓と循環系、刺激伝導系			
	6	講義	第8章 循環（2）：心電図、心臓の働き			
	7	講義	第8章 循環（3）：血圧			
	8	講義	第8章 循環（4）：臓器の循環、リンパの循環 ※確認テスト（1）			
	9	講義	第9章 呼吸（1）：呼吸器の構造、外呼吸と内呼吸			
	10	講義	第9章 呼吸（2）：呼吸気量（肺換気量）、呼吸運動			
	11	講義	第9章 呼吸（3）：ガス交換			
	12	講義	第9章 呼吸（4）：呼吸の調節 ※確認テスト（2）			
	13	講義	第12章 消化・吸収（1）：消化器の構造、咀嚼・嚥下			
	14	講義	第12章 消化・吸収（2）：各器官・臓器の消化			
	15	講義	第12章 消化・吸収（3）：吸収のしくみ			
	16	講義	第12章 消化・吸収（4）：肝臓の働き			
	17	講義	第10章 排泄（1）：腎臓の構造			
	18	講義	第10章 排泄（2）：腎臓の働き			
	19	講義	第10章 排泄（3）：排尿反射と神経因性膀胱			
	20	講義	第11章 酸塩基平衡			
	21	講義	第14章 代謝（1）：栄養素・物質代謝			

指導計画	22	講義	第14章 代謝（２）：エネルギー代謝、体温 ※確認テスト（３）
	23	講義	第13章 内分泌（１）：内分泌系総論（構造、ホルモンの種類）
	24	講義	第13章 内分泌（２）：内分泌系各論（ホルモンの作用、分泌異常症）
	25	講義	第3章 末梢神経（１）：ニューロン、神経の興奮と伝導、シナプス
	26	講義	第3章 末梢神経（２）：末梢神経の分類、自律神経
	27	講義	第4章 中枢神経（１）：大脳の構造と働き、大脳基底核、大脳辺縁系
	28	講義	第4章 中枢神経（２）：その他の脳の構造と働き、血液脳関門 ※確認テスト（４）
	29	講義	第15章 生殖と発生・成長と老化：胎児の血液循環、老化に伴う身体の変化
	30	講義	第7章 血液：身体の防御機構（免疫）
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 ☒ 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。
テキスト・参考図書等			標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 生理学 （医学書院） からだが見える 人体の構造と機能（メディックメディア）
評価方法			履修期間内に4回、それまでの履修度を確認するためのテストを実施する（20％）。また、前期・後期に定期試験（筆記試験）を実施する（80％）。それらの合計（100％〔100点満点〕）を評価点とする。その評価点で60点以上を合格とする。

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	生理学実習		学科名	理学療法学科	講師名	井崎 義己
時間数	45時間				実務経験の有無	病院ならびに介護老人保健施設・通所リハビリテーションの経験有
学年・学期配当			1 年次2 年次		前期	後期通期
目的・ねらい			理学療法評価ならびに治療の基礎となる疾患や障害を把握・理解するためには、身体の構造や働きを知ることが必須である。機器等を使用しての計測や検者・被検者等の体験を通して、理解をより良いものにしていく。			
授業全体の内容の概要			運動器に関しては自らの身体を使いながら、構造や働きを立体的に理解する。また、感覚器については構造や働きを理解するとともに、検査法を体験する。呼吸や循環については、でき得る限り、機器等を使って計測を体験する。			
授業修了時の達成課題（到達目標）			1. スムーズに正確な脈拍や血圧の測定ができる。 2. 運動器、感覚器の構造ならびに働きを理解する。 3. 運動療法の基礎となる運動生理の概要を理解する。			
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	第8章 循環：脈拍、血圧に関する基本事項の確認			
	2	講義・実技	第8章 循環：脈拍、血圧測定			
	3	講義	第9章 呼吸：呼吸ならびにガス交換に関する基本事項の確認			
	4	講義・実技	第9章 呼吸：スパイロメーター検査、酸素飽和度測定			
	5	講義	第6章 感覚：感覚総論（分類、閾値など）			
	6	講義・演習	第6章 感覚：伝導路			
	7	講義	第6章 感覚：特殊感覚（視覚、聴覚・平衡感覚、味覚）			
	8	講義・実技	第6章 感覚：体性感覚（温度覚、痛覚、触覚）の検査			
	9	講義	第5章 筋：骨格筋の構造、神経支配			
	10	講義	第5章 筋：骨格筋の収縮			
	11	講義	第5章 筋：筋紡錘と腱紡錘			
	12	講義・実技	第5章 筋：反射のメカニズム、反射の種類			
	13	講義	第5章 骨：骨の構造と働き			
	14	講義・演習	第5章 骨：上肢の骨			
	15	講義・演習	第5章 骨：下肢の骨			
	16	講義・演習	第5章 骨：頭部・顔面、脊柱の骨			
	17	講義・演習	第5章 筋：上肢の筋			
	18	講義・演習	第5章 筋：下肢の筋			
	19	講義・演習	第5章 筋：体幹の筋			
	20	講義	第16章 運動生理：筋力・持久力、有酸素・無酸素運動			
	21	講義	第16章 運動生理：運動による生理的变化、トレーニング効果			

指導計画	22	講義	第16章 運動生理：サルコペニア、フレイル
	23	講義	まとめならびに補足・追加説明
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有 ・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。
テキスト・参考図書等		標準理学療法学作業療法学 専門基礎分野 生理学 （医学書院） からだが見える 人体の構造と機能（メディックメディア）	
評価方法		定期試験（筆記試験）を実施する（90％）。それに実技・演習等の出席状況（10％）を加え、合計（100％〔100点満点〕）を評価点とする。その評価点で60点以上を合格とする。	

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	内科学Ⅰ		学科名	理学療法学科	講師名	今野 哲男
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当			1年次2年次		前期	後期通期
目的・ねらい			全身的な内科疾患の内、理学療法の対象となる疾患について理解する。			
授業全体の内容の概要			「解剖学」「生理学」の基礎を学んだ上で、症候のメカニズムや各疾患の特徴の捉え方との関連づけを図る。適宜、治療薬についても説明する。			
授業修了時の達成課題（到達目標）			内科的病気の基礎を知り、リハビリテーションの概要を理解する。			
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	呼吸器疾患①			
	2	講義	呼吸器疾患②			
	3	講義	呼吸器疾患③			
	4	講義	呼吸器疾患④			
	5	講義	自己免疫疾患①			
	6	講義	自己免疫疾患②			
	7	講義	代謝性疾患①			
	8	講義	代謝性疾患②			
	9	講義	代謝性疾患③			
	10	講義	腎・泌尿器疾患①			
	11	講義	腎・泌尿器疾患②			
	12	講義	消化器系疾患①（肝臓・胆嚢・膵臓）			
	13	講義	消化器系疾患②（肝臓・胆嚢・膵臓）			
	14	講義	消化器系疾患③（食道・胃・腸）			
	15	講義	まとめ			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験（有）・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等			特に指定しない。			
評価方法			筆記試験			

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	保健体育		学科名	理学療法学科	講師名	宮本 淳
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期後期通期		
目的・ねらい		自身の健康についての意識や身体活動について考え、さらに体を動かすことの楽しさを実感することやクラスメートとの親睦を図ることを目的とする。				
授業全体の内容の概要		健康・体力の維持・増進を図るため、身体運動及びスポーツの実習を通じて自主的・合理的に生涯にわたる自己の心身の健康管理及びスポーツ活動を行うことができる教養と実践能力を育成する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	実習	運動・スポーツ実践①			
	2	実習	運動・スポーツ実践①			
	3	実習	運動・スポーツ実践①			
	4	実習	運動・スポーツ実践①			
	5	実習	運動・スポーツ実践①			
	6	実習	運動・スポーツ実践②（レクリエーション・地域交流）			
	7	実習	運動・スポーツ実践②（レクリエーション・地域交流）			
	8	実習	運動・スポーツ実践②（レクリエーション・地域交流）			
	9	実習	運動・スポーツ実践②（レクリエーション・地域交流）			
	10	実習	運動・スポーツ実践④ 球技			
	11	実習	運動・スポーツ実践④ 球技			
	12	実習	運動・スポーツ実践⑤ 球技			
	13	実習	運動・スポーツ実践⑤ 球技			
	14	実習	運動・スポーツ実践⑥ 球技			
	15	実習	運動・スポーツ実践⑥ 球技			
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等		電子書籍等				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、レポート、出席状況、受講態度をもって判定する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	理学療法学概論		学科名	理学療法学科	講師名	井崎 義己
時間数	30時間				実務経験の有無	病院ならびに介護老人保健施設・通所リハビリテーションの経験有
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期後期通期		
目的・ねらい		リハビリテーションにおける理学療法の位置づけや歴史、今後の展望等を紹介する。その中で仕事としての理学療法士の役割ややりがいをイメージし、職業意識やモチベーションの向上を図る。				
授業全体の内容の概要		社会における理学療法士の役割や仕事のやりがい等を感じてもらうため、理学療法の過去・現在・未来について系統的に学習を進め、かつ多角的視点より学習する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		1.リハビリテーションや理学療法の定義やその根拠となる法律等を理解する。 2.対象となる障害を的確に評価する視点を理解する。 3.理学療法（士）の業務や職域を学習し、自らの理学療法士像を明確にする。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	リハビリテーションとその中の理学療法（法律と定義）			
	2	講義	理学療法の歴史			
	3	講義	対象としての障害：ICIDH			
	4	講義	対象としての障害：ICIF			
	5	講義	理学療法の領域（医療・福祉・保健）			
	6	講義	理学療法の領域拡大（予防・健康増進分野）			
	7	講義	理学療法の領域拡大（行政分野、産業分野、学校保健分野、女性分野）			
	8	講義	理学療法業務（治療、管理、研究、教育、社会貢献）			
	9	講義	理学療法業務に必要な用語（クリニカルパス、廃用症候群、クリニカルクラークシップ）			
	10	講義	理学療法における評価			
	11	講義	理学療法教育			
	12	講義	理学療法に関する法律（身体障害者福祉法、介護保険法など）			
	13	講義	理学療法における研究（エビデンス、インフォームドコンセント）			
	14	講義	理学療法の将来展望（就職、領域、協会など）			
	15	講義・演習	理学療法士をめざすためのキャリア教育			
		原則、筆記試験の実施 筆記試験 有・無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等		※配布する講義資料を参照				
評価方法		定期試験（筆記試験）の点数100点満点のうち60点以上を合格とする。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	理学療法管理学		学科名	理学療法学科	講師名	日和 将貴
時間数	30時間				実務経験の有無	理学療法士業務
学年・学期配当		1 年次2 年次		前期後期通期		
目的・ねらい		目的：医療を取り巻く関連法規を理解することにある。 ねらい：医療関連施設内におけるマネジメントの重要性の理解から、他職種連携におけるリハビリテーションの位置づけを理解することができる。				
授業全体の内容の概要		リハビリテーション概論や理学療法概論等でも学ぶ「業務管理」について、グループワークを通して理解を深める。早い段階で管理職や起業を見据えることのできるようキャリア形成を教育の一環として、説明する。				
授業修了時の達成課題（到達目標）		到達目標： 医療を取り巻く関連法規を理解し、医療関連施設の組織を把握することとする。 自身のキャリア形成と目標立案ができるようこととする。				
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	リハビリテーション科における管理とは			
	2	講義	組織化とは			
	3	講義	業務管理（１）			
	4	講義	業務管理（２）			
	5	講義	人事労務管理			
	6	講義	教育管理（１）			
	7	講義	教育管理（２）			
	8	講義	管理者のあるべき姿			
	9	講義	リスクマネジメント			
	10	講義	経営管理			
	11	講義	質の高いリハビリテーションを提供するために			
	12	演習	グループワーク			
	13	講義	キャリアアップについて			
	14	演習	目標立案（グループワーク）			
	15	講義	まとめ			
		原則、筆記試験の実施（筆記試験（有）・無）しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイントなどの提出を必須とする。				
テキスト・参考図書等		リハビリテーション管理学 羊土社、2020年 適宜、資料を配布する。				
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価については期末試験90%、出席・平常点10%で判定する。				

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	解剖学		学科名	理学療法学科	講師名	浦川 将 ほか
時間数	60時間				実務経験の有無	大学での授業担当
学年・学期配当			1 年次		前期（火曜日）	
目的・ねらい			理学療法を実施する上で必要不可欠な解剖学の知識を習得する。			
授業全体の 内容の概要			解剖学の基礎的知識、筋骨格系、神経系について学ぶ。			
授業修了時の 達成課題 (到達目標)			解剖学の基礎的知識として、細胞や組織に関すること、筋骨格系/神経系の解剖学的知識を理解している。			
指導計画	回	形態	内 容			
	1	講義	解剖学総論（浦川）			
	2	講義	骨系（骨格）総論、脊柱～骨盤（浦川）			
	3	講義	骨系（骨格）上肢、下肢、頭蓋骨（浦川）			
	4	講義	関節 総論、脊柱（浦川）			
	5	講義	関節 上肢、下肢、頭蓋骨 （岡本）			
	6	講義	筋系 総論 （岡本）			
	7	講義	筋系 上肢帯～上腕（浦川）			
	8	講義	筋系 前腕～手部（浦川）			
	9	講義	筋系 下肢帯～大腿（岡本）			
	10	講義	筋系 下腿～足部（岡本）			
	11	講義	筋系 頭頸部、体幹（岡本）			
	12	講義	神経系 総論、中枢神経（岡本）			
	13	講義	神経系 末梢神経（脊髄神経）（岡本）			
	14	講義	神経系 末梢神経（自律神経、脳神経）、伝導路（岡本）			
	15	試験	授業のまとめ、筆記試験			
			原則、筆記試験の実施 有 ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイント などの提出を必須とする。			
テキスト・参考図書等			Crosslink basic リハビリテーションテキスト 解剖学 MEDICAL VIEW			
評価方法						

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）

2025年度 指導計画 (シラバス)

広島国際医療福祉専門学校

科目名	救急救命医学			学科名	理学療法学科	講師名	大瀬戸 亮平 宮本 淳	
時間数	15時間					実務経験の有無	作業療法士業務 理学療法士業務	
学年・学期配当		1 年次 2 年次			前期	後期	通期	
目的・ねらい		応急処置をはじめとする基本的な救命方法を実践することができる。						
授業全体の 内容の概要		救急救命に必要な基本知識を身につける。						
授業修了時の 達成課題 (到達目標)		講義・演習を通して、固定やAED操作を習得。						
指導計画	回	形態	内 容					
	1	講義/演習	応急手当					
	2	講義	災害時における作業療法士の役割					
	3	講義	生活に役立つ身近な防災情報					
	4	演習	AED演習					
	5	演習	AED演習					
	6	演習	救急法					
	7	演習	救急法					
	8	演習	救急法					
	9							
	10							
	11							
	12							
	13							
	14							
	15							
			原則、筆記試験の実施 筆記試験 <u>有</u> ・ 無 しない場合は、授業の中でレポートや実技試験をおこなうこと。レポート課題・実技試験の内容及び評価ポイント などの提出を必須とする。					
テキスト・参考図書等		特定しない。						
評価方法		実施された授業コマ数の1/3以上を欠席すると定期試験の受験資格を失うため、管理を徹底すること。成績評価は、筆記試験、出席状況、受講態度をもって判定する。授業の進捗状況によって、授業内容を一部変更する 場合がある。						

※形態は、講義・演習・実習（施設/企業等）